

日本地域情報コンテンツ大賞2022 表彰式



日本地域情報コンテンツ大賞2022



参加媒体総数 **486** 媒体

主催：一般社団法人日本地域情報振興協会
後援：内閣府／経済産業省／農林水産省／観光庁／公益社団法人日本観光振興協会
協賛：（特別協賛）シヤチハタ株式会社／ゴールドスワンキャピタル株式会社（協賛）総合商研株式会社
協力：JIMC（日本インバウンド・メディア・コンソーシアム）

名称 日本地域情報コンテンツ大賞2022
後援 内閣府／経済産業省／農林水産省／観光庁／公益社団法人日本観光振興協会
特別協賛 シヤチハタ株式会社／ゴールドスワンキャピタル株式会社
協賛 総合商研株式会社
協力 JIMC（日本インバウンド・メディア・コンソーシアム）／日本地域メディアネットワーク
主催 一般社団法人日本地域情報振興協会
公式サイト <http://award.nicoanet.jp/>

□開催概要



主催：一般社団法人日本地域情報振興協会 [NiCoA]
Nippon Community Contents Association

開催主旨：地方創生が全国的に課題となり、各地で様々な取り組みが展開されています。このような中で、地域密着型メディアの存在は増々重要となって参りました。本アワードを通じて、地域密着型メディアの実績や活動、地域経済活性化に貢献している存在価値を広く知らしめること、そして発行元媒体社の制作意欲を鼓舞し、より一層充実した取材活動を促進していくことで地域の魅力再発見、地方創生に貢献する。

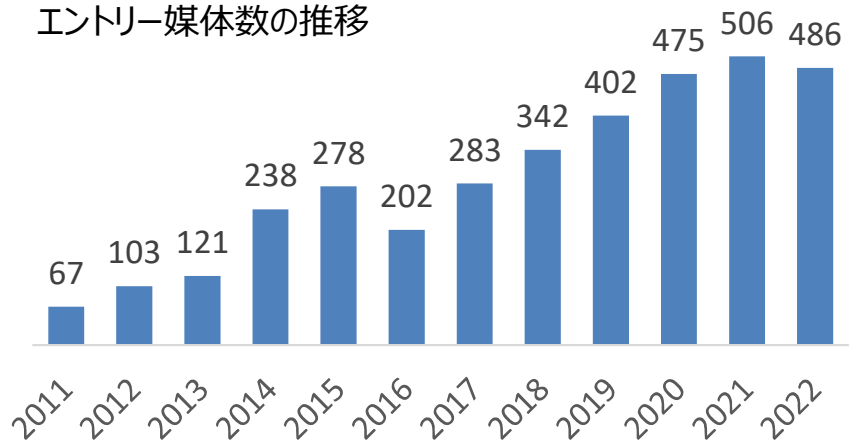
エントリー資格：有料無料を問わず、国内外で地域情報、コミュニティ情報を定期的に発行する紙媒体及び紙媒体発行会社のWeb・動画。自治体関連の紙媒体・WEB・動画

開始年（今年の開催回数）：2011年（第12回開催）

エントリー期間：2022年7月1日～9月15日

総エントリー数 486媒体
審査部門エントリー 144媒体
特別出展部門エントリー 342媒体
※審査員部門
(紙100誌／WEB11件／動画33件)

エントリー媒体数の推移



読者投票

2022年10月1日～10月31日

全エントリー媒体展示会

2022年11月5日～11月11日

オンライン表彰式

2022年11月28日（月）

アワード特別セミナー（WEB）

2023年2月開催予定

□後援

日本全国で発行される地域密着型メディアが取材し、発掘する地域情報とは、他には類のないディープな観光情報であったり、地域の特産物のPR、地域への観光客の誘客や地域で活躍する人材の育成等、地域経済活性化に寄与している点が評価され、内閣府、経済産業省、農林水産省、観光庁の後援を頂戴しています。同様に、観光業界への貢献の面から日本観光振興協会様の後援をいただいています。

内閣府 第7回開催から6年連続／内閣府地方創生推進事務局長賞は第7回開催から設定
経済産業省 第1回開催から12年連続
農林水産省 第4回開催から9年連続
観光庁 第3回開催から10年連続／観光庁長官賞は第5回開催から設定
公益社団法人日本観光振興協会 第3回開催から10年連続

□審査員 ※順不同

雑誌編集の専門家はもちろん、映像演出、マーケティング、観光業界の専門家に審査員を委嘱。

大辻 統（オオツジ オサム）氏	内閣府地方創生推進事務局 総括参事官
遠藤 翼（エンドウ ツバサ）氏	観光庁観光地域振興部観光資源課観光庁 観光地域振興部 観光資源課 文化・歴史資源活用推進
隈 研吾（クマ ケンゴ）氏	建築家 東京大学特別教授・名誉教授
坂井 滋和（サカイ シゲカズ）氏	早稲田大学 基幹理工学部表現工学科 教授
富川 淳子（トミカワ アツコ）氏	跡見学園女子大学文学部 現代文化表現学科 教授 「雑誌は時代の鏡」という視点に立ち、社会の動きや他の文化、価値観を通して女性誌、ファッション誌の歴史や現代の特徴を研究。BRUTUS副編集長、Hanako編集長、anan編集長、Invitation編集長兼Colorful編集長、Esquire日本版編集長などを歴任。 日本出版学会会長
村上 旭（ムラカミ アキラ）氏	公益社団法人日本観光振興協会 総務・渉外部門 総務担当部長 兼 広報担当部長
古川 一郎（フルカワ イチロウ）	一般社団法人日本地域情報振興協会 副理事長 武蔵野大学経営学部 学部長 教授 一橋大学名誉教授 日本マーケティング学会会長、「日本マーケティング大賞」の選考委員も務める。『地域活性化のマーケティング』『「B級グルメ」の地域ブランド戦略』等執筆。
藤丸 順子（フジマル ジュンコ）	一般社団法人日本地域情報振興協会 専務理事

□表彰部門

- 地方創生部門（内閣府地方創生推進事務局長賞）
- 観光部門（観光庁長官賞）
- 有料誌部門
- ビジネスモデル部門
- 新創刊部門
- 地域コミュニティ部門
- WEB部門
- 動画部門

※上記8部門でエントリー募集し、今年は審査員奨励賞もあり。

■大賞



自治体：動画『THE FACES OF SHIKOKU』
／(一社)四国ツーリズム創造機構 (四国)



四国遍路という唯一無二のコンテンツを中心に、3分16秒で四国と言う広域の観光資源がリズム感よく紹介されている。

国内だけではなく、今後海外のインバウンドマーケットに対しての情報発信も考慮し、外国人のディレクターを起用。「ディテール」「素材」「質感」「音楽」等高いクオリティで演出され見ごたえのある映像となっている。登場する人たちのセリフもキーワードを中心に短いのが故に記憶に残る。

どこから見ても、切っても楽しめる映像で、今後様々な自治体の動画制作の参考になる作品になることであろう。

民間：『人生を耕すためのライフスタイルマガジン 耕Life』
／株式会社こいけやクリエイティブ (愛知県)



「人生を耕す」をテーマに食、農、環境、文化を取り上げる本誌を愛知県豊田市で10年前に創刊。

10周年の記念号では豊田市長との対談記事や豊田市で頑張る様々な生産者をインパクトのある写真と丁寧な取材記事で紹介する特集「いのちをいただく」の充実したコンテンツが誌面をかざる。

編集コンセプトに共感する広告出稿主に支えられ、本誌の誌面のイメージに合わせた記事広告が多く、全体として世界観のあるクオリティの高いデザインに仕上がっている。広告掲載の更新率が95%以上と言う点も素晴らしい。

このようなメディアを発行するパワーとノウハウを豊田市も高く評価し、今では会社の売上げの半分以上が行政とタイアップした街づくり関連であるという。今後もこの地域を読者と共に耕し、人々の人生を豊かに耕してくれることをさらに期待する。

日本地域情報コンテンツ大賞2022

内閣府地方創生推進事務局長賞

事務局長 審査評

地方創生は、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目指しています。

全国各地には、まだ十分に知られていない歴史や伝統文化、豊かな自然、地域産品など、魅力あふれる地域資源が数多くあります。それぞれの地域において、住民一人ひとりがその魅力に積極的に触れることによって、地域への誇りと愛着を持ち、地域の魅力をしっかりと発信していくことが地方創生につながります。

そういった点で、エントリー作品はいずれも地域の魅力を深掘りし、興味を惹きつける様々な工夫により、地域の個性を活かした特色ある情報を発信する素晴らしい作品揃いでした。

内閣府地方創生推進事務局長 淡野 博久

■地方創生部門 内閣府地方創生推進事務局長賞



内閣府地方創生推進事務局長賞(自治体)

『REedit north otsu 住むが見える旅』

／一般社団法人シガーシガ（滋賀県）



「RE edit north otsu 住むが見える旅」は、滋賀県の湖西地域に住む人々の声から、豊かな自然や風土など、暮らしの中で感じられる地域の魅力を伝えています。

特に移住者に焦点を当てた特集においては、移住者の目線で、それぞれの日常について語られており、丹念な取材に基づいた文章表現と写真から、琵琶湖と比良山地に囲まれたこの地域ならではの魅力が感じられるものでした。

本誌は、地元住民の郷土愛を醸成するだけでなく、湖西地域での「暮らしのヒント」となり、地域外の人々が実際に住んでみたいと思えるものとなっている点を高く評価しました。

内閣府地方創生推進事務局長 淡野 博久 評

内閣府地方創生推進事務局長賞(民間)

『35MAGAZINE』／株式会社35design（北海道）



「35MAGAZINE」は、北海道において丹念な取材を行い、ヒト・モノ・コトそれぞれの視点から地域の魅力を発信しています。

「冬」をテーマにした特集では、北海道の地で切っても切り離せない「雪」について、肯定的にとらえる豊かな表現と鮮やかな写真から、雪国の暮らしと地元愛が肌で感じられる一冊でした。

本誌は、北海道の「当たり前だからこそ気づきづらい魅力」を深堀し発信しており、自らが住むまちの魅力を再認識できるものとなっている点を高く評価しました。

全国各地において、地域の魅力を活かした持続的なまちづくりや地域活性化に向けた取組を進めるに当たり、その地域に住み続けたい、訪れたいと思わせる情報発信を通じて、今後も、地域密着型メディアが地方創生の重要な役割を担うことを期待しています。

内閣府地方創生推進事務局長 淡野 博久 評

■ 地方創生部門

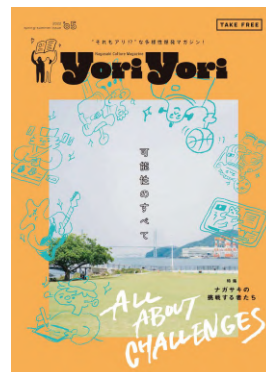


□ 地方創生部門 優秀賞（自治体）



『meet! まつら (vol.17)』
松浦市
(長崎県)

アジフライと、ゆかいな仲間たち
長崎県松浦産アジの認知拡大と地域活性化を目的にして発行後、イベント展開のほか、ユニークな関連グッズ開発、そして本のインパクトで多くのメディアに取り上げられるなど、本媒体が大きく地域に貢献していることが目に見えた3年間。
毎号、常にさまざまな切り口で楽しく展開する企画力。店紹介ページでは、アジフライの写真が並んでいるにもかかわらず、それぞれの個性や魅力を引き出すことで同じように見せないテクニック。写真・イラストでメリハリのある構成など、号を重ねるごとにさらにその技量を感じさせる点を評価。



『yoriyori vol.5』
長崎市 秘書広報部 広報広聴課
(長崎県)

長崎市が市内の若者に向けて発行する「自治体らしくない」広報誌。2年前の新創刊部門受賞以降、注目の一誌だ。今号は「挑戦」をテーマに、もがきながら挑戦している人、しくじり、再チャレンジしている人など、自分にとっての挑戦とは何かを問う内容。躍動感のあるデザインと構成で、作り手や登場者の熱量が伝わってくる。文章も、読み手と対話しているかのような臨場感がある。これを読む若者たちは、街に支えられているような力強さを感じるだろう。また、ほぼ全コンテンツに二次元バーコードやSNSのアカウントが添えられており、企画と編集の力を評価した。

□ 地方創生部門 優秀賞（民間）



『人生を耕すためのライフス
タイルマガジン、耕Life』
株式会社こいけやクリエイト
(愛知県)

「人生を耕す」をテーマに、食・農・環境・暮らし・文化を取り上げ愛知県豊田市で発行。持続可能な社会を目指し、取材した人や企業と読者をつなぐ様々なイベントを定期的に行っている。ファミリーで楽しく読める編集コンセプトのもと、デザイン・イラスト・写真のクオリティも高い。

■観光部門

観光庁長官賞

『岡山市新見市観光パンフレットにいま』／新見市役所（岡山県）



政府においては、インバウンドの本格的な回復に向け、日本各地の魅力を全世界に発信する「観光再始動事業」をはじめ、集中的な取組を進めているところです。

この岡山県新見市観光パンフレット「にいま」は、新見市を6つにエリア分けし、それぞれのエリアの特色に沿って魅力あるスポットや体験を発信しています。

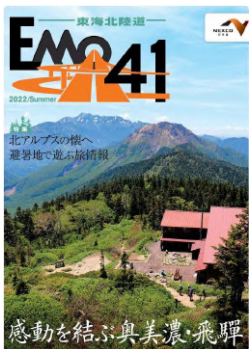
持ち運びに便利なサイズであることに加え、スポットを地図で分かりやすく紹介しており、地域を周遊する際に役立つ冊子となっています。

こうした形で地域の魅力を紹介することで、観光客の来訪意欲を高めるとともに、滞在期間中の満足度向上、滞在期間の延長、消費機会の拡大、ひいては地域経済の活性化に繋がるものと考え、評価いたしました。

今後も、日本の各地においてこのような素晴らしい取組が行われ、観光振興による地域の活性化に繋がることを期待しています。

国土交通省 観光庁 評

□観光部門 優秀賞



『EMO41』
中日本高速道路株式会社
高山保全・サービスセンター
(岐阜県)

車で旅行をする人達の為に中日本高速道路(株)高山保全・サービスセンターが発行する東海北陸道エリアのドライブ情報誌。表紙を開けると東海北陸道の高速のインターチェンジが一覧できる。見開きのドライブマップは車で移動する人には必見のコンテンツとなっている。また同じく見開きのイラストで紹介される飛騨ガイドマップは楽しいイラストで広域の観光ガイドとして便利な点も評価した。



『Tsumatabi holy times Vol.4』
嬬恋村役場
(群馬県)

群馬県嬬恋村が発行する 愛妻家の「聖地」を「掘り」まくる旅マガジン。今回はこの村の歴史文化やそのスポットを楽しくワクワクできるように深掘り。タブロイド版と言うサイズを生かしたインパクトのあるデザイン、イラストマップも評価。まずはこの村で暮らす人々が地元の魅力を再発見し、その口コミで愛妻家や愛妻家になりたい他のエリアの人達が多く訪れてくれるに違いないと思わせてくれる内容であった。



『北海道発掘マガジン JP01』
総合商研株式会社
(北海道)

北海道全179市町村のディープなありのままをありきたりの見せ方ではなくインパクトのある写真と印象に残る企画力で紹介する季刊誌。本アワードでは大賞や内閣府地方創生推進事務局長賞等様々な部門での受賞を重ねているが、今年は初めてこの観光部門での受賞。

此の媒体を読んで「北海道のこの地域に行ってみよう」という読者がいるに違いない。



『小旅行のすすめ Meet Kita!』
長崎市北部地区限定 三重・外海・琴海
長崎市北総合事務所
(長崎県)

長崎市北部地区(三重・外海・琴海)の観光スポットを紹介した小冊子。見開きページに大きくレイアウトされた写真、A5サイズで旅行に持ち運びやすい点を評価。長崎への集客は福岡から期待できるので、福岡からのアクセス情報やイラストマップには車で旅する人の為に移動時間を入れる工夫も欲しかった。

■ 海外発行部門



□ 海外発行部門 優秀賞



『INVEST ASIA - INDUSTRIAL PARK GUIDE』

Nichigo Press Media Group Pty Ltd
(ベトナム)

日系製造業がベトナムに進出する際のバイブル的企業情報誌。アジアの中でも高い GDP 成長率を維持しているベトナムへの進出を目指している日系企業にとって、進出までのタイムスケジュールや工業地域の詳細区画図面が入ったコンテンツ等は必要不可欠なもの。日本とベトナムをつなぐ意義ある企業情報誌として評価した。



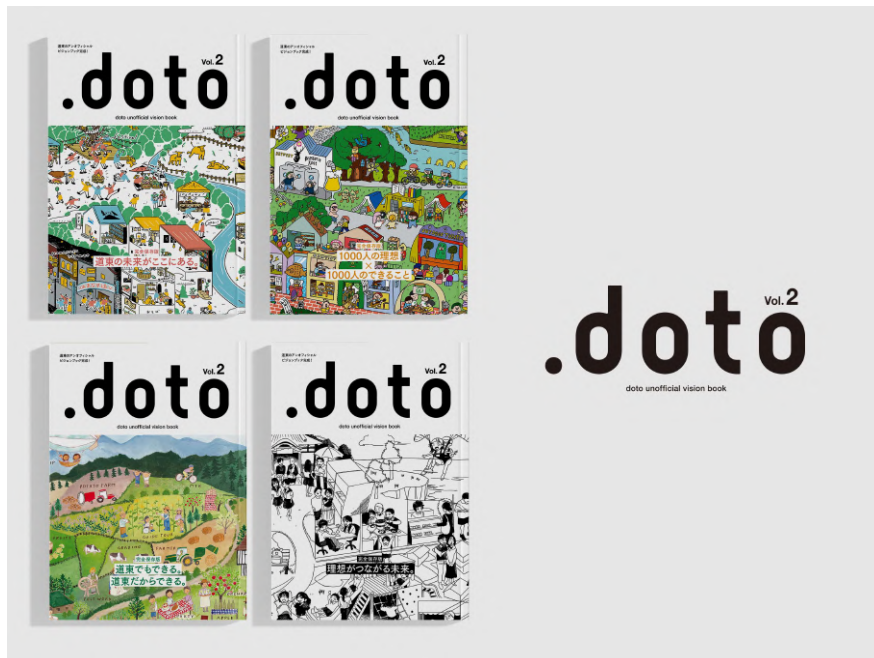
『Weekly LALALA』 Weekly LALALA, LLC (アメリカ)

2003 年にロスアンゼルス・ラスベガスで暮らす日本人向けに創刊された週刊のフリーマガジン。世界で最も多くの日本人が暮らす地域で日本ジ語で発信されディープな街の情報は欠かせないものとなっている。芸能界から政治に関する情報まで扱っているコンテンツも幅が広いのが特徴である。

■ ビジネスモデル部門

最優秀賞

『.doto』／一般社団法人ドット道東（北海道）



2020 年の本アワードにおいて「内閣府地方創生推進事務局長賞最優秀賞」を受賞した第2弾である。クラウドファンディングを活用し、618 名から650 万を集め、制作メンバーは100 名を越え制作前から1383 冊の購入予約を取り付けた。コンテンツは、1000 人が語る道東の未来に関するビジョンとなっている。今までにはない手法で人とお金を集め、そのパワーで地元を元気にすると言う素晴らしい発想と行動力で見事にビジネスモデル最優秀賞に輝いた。

■ 審査員奨励賞



『かしわカレー図鑑』／柏カレーPRESS（千葉県）



千葉県柏市で2018年に創刊された「かしわカレー図鑑」それ以来毎年本アワードに参加。

小さいサイズのかわいいミニコミ誌に審査員一同「柏にどれぐらいのカレー屋があるのかな？継続して発行できるのか？」と心配の声が上がった。にもかかわらずである。なんと号を重ねるごとにファンも増え誌面もパワーアップしている。またウェブでの展開も見事であり、Instagramの更新頻度も高く、スタンプラリーを展開する等、柏をカレーの聖地とすべく頑張っている媒体である。今後も取材先のお店、読者が熱烈なファンとなり、素晴らしい集大成としてのかしわカレー図鑑（有料本）の創刊を期待して本アワード始まって初めての審査員奨励賞を贈る。

■有料誌部門

最優秀賞

『めぐる、』／株式会社あわわ（徳島県）



素顔のとくしま、紡ぐ物語

めぐる、

12 | 2022
9-10月号 800円

特集
はたらく人と
ごはん



地元を暖かく見つめている視点で一冊丸ごと編集されている点を審査員一同が高く評価。お金を出して買いたいと思わせてくれる媒体である。特に写真は秀逸で、人の表情、構図に至るまでレベルが高い。その写真のキャプションや吹き出しのコメントもコンテンツとして十分楽しめる。一点残念な点は巻頭に脱いだくつの写真をもってきたこと。この写真により本全体が暗い印象になったのでは？

また、登場人物が男性中心で、女性の働く人は少ないのかなあという疑問をもたれてしまう懸念の声も審査員から上がった。

□有料誌部門 優秀賞



『別冊モトクラシー』
合同会社ココ企画
（北海道）

「地元応援」を掲げ、地元の魅力を発信してきたフリーペーパー『モトクラシー』過去3年の情報を再編集して書籍化し、地元以外の都市部への発信を目的とし有料本として発行した『別冊モトクラシー』。情報が整理され、各SNSやGoogle Mapへの誘導、バイリンガル仕様など、誰にでも分かり易く親切的な構成になっている点を評価した。

今回の試みで「過去記事をまとめた書籍を都会で、最新情報は地元配布のフリーペーパー」と言う、新たな役割と価値の創造が築かれた。この価値の創造は、今後のフリーペーパーの可能性を大きく広げたと言える。「この場所に行けば、沢山の楽しい体験ができそう」期待が膨らむ一冊だ

■ ライフスタイル部門

□ ライフスタイル部門 優秀賞



『太田フリモ』 株式会社中広 (愛知県)

群馬県太田市で発行されている。地元のプロバスケットボールチームの群馬クレインサンダーズの写真を使った表紙はインパクトがあり、此の媒体が欲しいと読者に思わせてくれる演出を評価。コンテンツとして選手に人気のグルメ、どんなトレーニングをしているのか？利用するスポーツのクラブやマッサージ店等を広告企画にし、特集のボリュームを増やす工夫が欲しかった。次回に期待する。



『ベルメール-bellmail-』 JA京都中央会 (京都府)

ブランド野菜である「京野菜」の魅力を、潔く「賀茂なす」「京山科なす」の2つに絞り、それを様々な切り口で発信していて興味深く読める。なすを主役にした両面扉構造だが、中間の見開きでうまく直売所等の情報で区切られ、使い勝手もよい。なすを選ぶ時の参考になるほか、その名前の由来など京野菜を通じた地域の誇りも感じられる。レシピや料理上のコツも役立つ情報になっている。毎号、大切に保存しておきたい一冊だ。

CHIKUSUKI* 7 MAG LOCAL DESIGN FREE MAGAZINE 2022 ISSUE 429 ¥0

問題です
美空ひばり、
山口百恵、
椎名林檎も来た
筑豊の場所は？

巻頭15

チクホドリル (CHIKUSUKI*)
Chikuhon Chikuhon

『CHIKUSUKI*』 株式会社トーン (福岡県)

コロナ禍の中でも営業の努力で広告が集稿できている点お評価。一方で、その広告と記事をどうデザインするのか、広告を価値あるコンテンツとして読者にどう提供していくのか、是非チャレンジして欲しい。読者登録の仕組み、成果報酬型の広告モデルなど地域活性化の為の取り組みも素晴らしく、地元になくてはならないメディアであることだろう。

■企業誌部門

最優秀賞

『ジャパンプリントセールスプロモーションクリエイティブマガジン
「いろどり」』／ジャパンプリント株式会社（東京都）



総合印刷株式会社として、企画・制作・印刷までを全て自社内で作り上げた渾身の一作である。特集企画、編集のクオリティも高く、最後まで楽しんで読めた。

特にサバ缶等食べ物をおいしくみせるには優れた技術が必要であるが、撮影、フードコーディネート等も優れており「フード系の仕事に関しては、この会社に安心して任せられる」と思わせてくれる、優れた企業プロモーション誌となっている。

制作に関わった社員の皆さんの部署・名前も明示されており、社員の育成の役に立っている点も高く評価した。

□企業誌部門 優秀賞



『クイックガーデニング通信』
株式会社クイックガーデニング
（東京都）

「お客様の日常に寄り添える植木屋」をモットーに制作されている季刊誌。編集に関しては未経験で、植木屋としてお客様とのコミュニケーションを目的にして創刊された。今年5年目を向かえ、今では4万6千人のお客様に届ける媒体に成長。コンテンツもお客様との接点づくりとしてユニークで楽しい。今後はプロではない編集の素朴さを生かしながらもガーデニング好きな女性の協力者を巻き込む等の広がり写真のレベルアップに期待したい。



『こうぐり』
JA高知県
（高知県）

本アワードに参加いただく常連の媒体。毎年企画内容、編集力が向上していることを高く評価。JAの会員向けの媒体として、この地域の食に関する様々な情報をインパクトのあるビジュアルを中心に読みやすく提供されている。旬を生かした家庭料理のレシピや会員の活動報告も楽しく読める。回を重ねるごとに企画内容やデザイン力等が向上している点も高く評価した。また、媒体のサイトも充実しており、web・紙媒体の強みを生かしたクロスメディア展開も素晴らしい。増々の成長を期待したい。

■ 動画部門

最優秀賞

『安来市プロモーション動画 Cinematic Vlog YASUGI』
／安来市（島根県）



ターゲットを20代女性に絞り込んだ2分8秒の映像。ターゲットである女性たちが日常的に活用しているSNS・Instagramとのクロスメディアになっている新しい取り組みを高く評価した。地名等の文字情報を入れず美しい映えるスポットや若い女性（モデル）を中心のコンテンツにすることでターゲットの共感性を高めるといった思い切った演出がユニークである。

■ 動画部門



□ 動画部門 優秀賞



『WAKASAJI PHOTOGENIC VIEWS』 一般社団法人若狭湾観光連盟 (福井県)

福井県の西部に位置する若狭路。若狭湾に面しているこのエリアの6市町村の美しい自然、特におすすめの写真スポットを丁寧にクオリティの高い映像で紹介している点を評価した。フォトコンテスト若狭路フォトミッションの応援動画として制作されているので、美しい風景や建築物を見れば人々はシャッターを切ると思われるので、カメラを抱えている人物シーンが多いのが気になった。



『【1分でわかる鹿沼市の魅力】 ジブンスไตล์かぬま』 鹿沼市 (栃木県)

栃木県の日光と宇都宮に隣接する鹿沼市の魅力を映像のタイトル通り、1分10秒で紹介している。分かりやすくサクッと気軽に楽しめる点を高く評価した。できるならば、ドローンを上手く活用して鹿沼市全体が見えるシーンと登場人物の声が聞こえるシーンがあれば、さらにパワーアップされると思われる。



『つがる市さ来るな ver1』 つがる市 (青森県)

前半はこの街に来た訪問者に対して無愛想な反応をする人たちを描き、後半はその種明かしをするというストーリーでユーモアたっぷりに街の魅力が描かれており、5分近い映像も笑いながら最後まで見れた点を評価した。



『PULSE OF LIFE IN KITASHIRIBESHI』 N合同会社 (北海道)

国内、海外向けに制作されている。北海道の日本海岸に位置する北後志地域の紹介映像。北海道という魅力ある自然をドローンを上手く活用しながら躍動感あふれる美しい映像に仕上がっている点を高く評価した。年間を通して撮影されているので季節の移ろい、四季折々の魅力を感じる事ができる。この動画によって多くの外国人が訪れることを期待する。

WEB部門



最優秀賞

『東広島デジタル』／株式会社プレスネット（広島県）



東広島市のニュース、グルメ、イベント情報、求人情報、不動産情報など超地域密着型で地元の暮らしに役立つ情報を発信しているサイト。トップ画面には大きく目立つ「お得」というボタンがあり、誰もがまずこのボタンをクリックすることであろう。

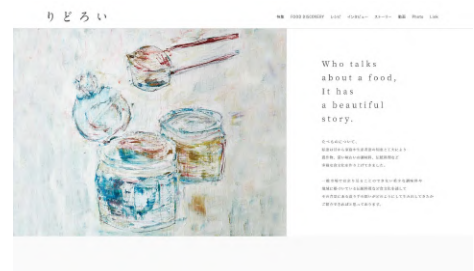
「今日の日付」が付いているという事は今日のお得情報は何だろうと毎日このサイトを訪れたくなる仕掛けが秀逸で高く評価した。サイトオープン2年目で年間350万PVあるというのがその人気ぶりを表している。

WEB部門 優秀賞



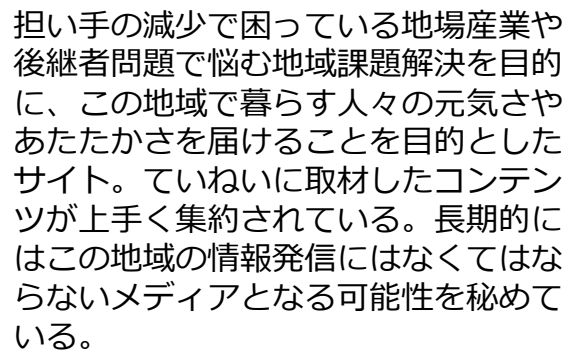
『議会広報紙「TOYAMAジャーナル」(令和4年度版)の発行について』 富山県議会 (富山県)

県民に議会の活動をしてもらい県政への関心を高める事を目的とした議会広報誌「TOYAMA ジャーナル」のWeb サイト。行政として必要な事項が網羅されている点を評価。今後はこのような情報にはエビデンスが必須となることが考えられるので、財務省のサイトを参考にすることを勧めたい。高齢者が読みやすいように、文字の大きさにも配慮する工夫もほしい。



『いろいろ』 ジャパンプリント株式会社 (東京都)

Web の場合、デファクトスタンダードはメニューバー等は左上から。このサイトは、本文は左からスタートしているがタイトルは右から始まる。人によっては「いろいろ」と読むのでは？との意見が審査員から多かった。一方、使用している写真が紙媒体同様クオリティが高く、印象に残る点を評価した。



山口県周南市公認の市民ライターの皆さんが、この地域の暮らしに役立つ情報を丁寧にリポートしているサイト。とても見やすいレイアウト、デザインで直感的に欲しい情報にアクセスしやすい工夫を評価した。

『みんなでつくる周南市ガイドブック
by 周南市市民ライター』
周南市
(山口県)

■タブロイド部門

最優秀賞

『せとうちアート通信』／本州四国連絡高速道路株式会社（東京都）



タブロイド版と言う強みを最大限生かして様々なポスターを並べたインパクトのある表紙、見開きページの使い方を高く評価した。

このエリアにどんな美術館があるのか、パッと見ることが出来る一覧性は読者にとってこの媒体の利用価値は高い。保存していつかは行ってみたいという動機づけにもなることだろう。

ドライブを楽しむ読者の為に、マップ上に移動に関する際の所要時間情報が提供されていれば、より参考になると思われる。

□タブロイド部門 優秀賞



『南山梨HuMaN』
株式会社山梨毎日広告社
(山梨県)

山梨県南部の早川町・身延町・南部町で発行されている。早川町は日本で人口が一番少ない町というが、その分暮らす人々の地元愛は強く、此の媒体からはそんな情熱が伝わってくる。「人」ありきのコト・モノの紹介記事。地元の皆さんの短歌や俳句などのコンテンツ等地域メディアとして今後地域活性化に大いに役立つことが期待できる。「継続は力なり」頑張っていたきたい。



『The Weekly Press Net』
株式会社プレスネット
(広島県)

この地域ならではのディープな情報満載で毎週発行されている媒体。毎週これだけの情報を集め編集するその継続力に審査員一同が敬服。タブロイド紙では、インパクトのある写真とキャッチで読者を引き付け。リアルタイムに発信するwebではより深く詳しい情報を提供している。またラジオ放送と連携もしており、このエリアにとっては無くてはならないメディアであることが想像できる。グルメの情報もボリュームがあり楽しめた。

■ 読者投票部門(紙媒体)



第1位 6,402票

『kokohada』／エンタメ型地域活性化コミュニティココハダLAB
(埼玉県)



第1 回目の中間発表から1 位を守り続け、6,402 票を集めダントツで読者投票部門に輝いた。

市内で楽しく消費をする人を増やそう！をコンセプトに 2012 年の創刊から早いことで10 年を迎えるフリーマガジンで、今ではオンラインサロンなども運営しながら、市内で何かにチャレンジしたい人たちが集まり、常にチャレンジをし続け、新しいアイディアを実行。

熱烈なファンに支えられ、名誉ある賞 読者投票部門 第1位に輝いた。

■ 読者投票部門(紙媒体)



第2位 2,986票



『.doto』
一般社団法人ドット道東
(北海道)

北海道の東側・道東から発信する『.doto』。道東の1000人の理想が掲載されたアンオフィシャルビジョンブック。創刊号となる第1弾は2020年の本アワードにおいて「内閣府地方創生推進事務局長賞（地方創生部門 最優秀賞）」を受賞。約2年ぶりとなる本書には制作メンバー自らが道東各地で集めた「1000人の道東で実現したい理想」を紹介している。

第3位 2,659票



『人生を耕すための
ライフスタイルマガジン 耕Life』
株式会社こいけやクリエイト
(愛知県)

「人生を耕す」をテーマに、食・農・環境・暮らし・文化を取り上げ愛知県豊田市で発行。持続可能な社会を目指し、取材した人や企業と読者をつなぐ様々なイベントを定期的に行っている。ファミリーで楽しく読める編集コンセプトのもと、デザイン・イラスト・写真のクオリティも高い。

第4位 1,933票



『FIELD NOTE no.111 Jul.2022』
公立大学法人都留文科大学
(山梨県)

山梨県の東部に位置し、富士山の麓にある人口約3万人規模の都留市。その都留市に、全国から学生が集まる約3,500人規模の都留文科大学がの学生が主体となり、「地域を観察し、記録し、学びあう」をテーマに自ら企画を立て、地域に出て観察し、取材し、市民、教職員とともに発行しているのが『フィールド・ノート』。企画から取材、入稿までの一連の編集作業を学生が主体となり20年にわたり継続して発行してきた媒体である。

第5位 1,700票



『MyFuna』
株式会社myふなばし
(千葉県)

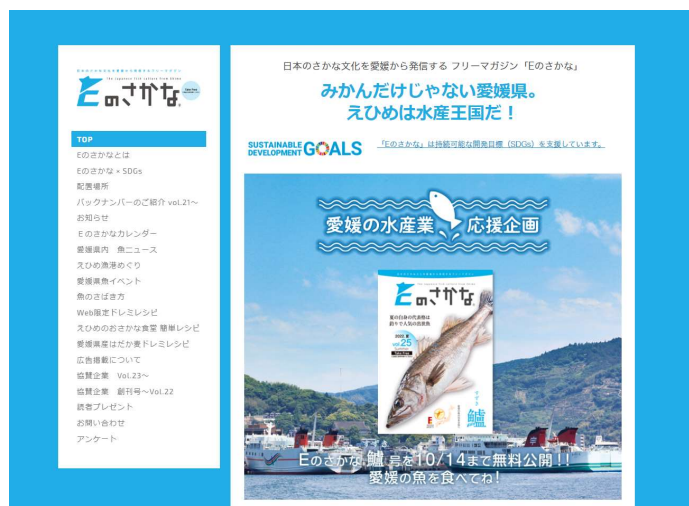
タウン誌としてのリニューアル創刊から13年、発行にかかる経費を「まいふなサポーター」に支えられ、現在では200社近い地元サポーター会員企業の支えを元に発行・運営を続けている。編集部の特徴として、編集スタッフは「地域の主婦と高齢者が中心」であり、ライター未経験者も参加しやすい体制を整え、地域の魅力をそこに住む人が発信し、さらに、地域の人と人、人や場所、人とモノをつなぐ、「地域の編集」ができることを目指している媒体である。

■ 読者投票部門(Web)



第1位 149票

『Eのさかな』／佐川印刷株式会社（愛媛県）



日本のさかな文化を愛媛から発信する季刊誌「Eのさかな」のWEB サイト。愛媛県の代表的な魚を題材に、地域の水産業や食・暮らし・自然・文化などを取り上げ、愛媛の魅力を発信。地元新聞社と連携した県内の魚ニュースやイベント情報等のコンテンツも充実している。

第2位 116票



『みんなで作る周南市ガイドブック by 周南市市民ライター』
周南市
(山口県)

山口県周南市公認の市民ライターの皆さんが、この地域の暮らしに役立つ情報を丁寧にレポートしているサイト。とても見やすいレイアウト、デザインで直感的に欲しい情報にアクセスしやすい工夫を評価した。

第3位 41票



『JA高知県公式ホームページ』
JA高知県
(高知県)

JA高知県の「食」と「農」を知って欲しいと農畜産物の紹介のみならず、ブランド野菜、レシピの情報のほか、農家やJAの取組、食や農に関する動画をコンテンツとして発信。紙媒体「こうぐり」とメディアミックスでサイト訪問客が増える仕組みになっており、紙媒体では紹介しきれないネット販売サイトや農業求人サイトとも連携。

■ 読者投票部門(動画)



第1位 1,257票

『「ここには、好きなものがありすぎる。」 Dear our Hokkaido - 親愛なる北海道へ -』
／株式会社35design (北海道)

あり
好き
ここ
す
な
に
ぎ
も
は
の
が
る。

「ここには、好きなものがありすぎる。
この北海道で暮らせば暮らすほど、好きなものがひとつ、またひとつと増えていく。この地には、知らない喜びがまだまだきつとあるんだろう。そのすべてを味わい尽くすため、この一生をかけるのも悪くない。」という熱い思いで発行されている35MAGAZIN。
熱い思いを支えるファンから1,257 票を集め、読者投票 動画部門で見事第1 位に輝いた。

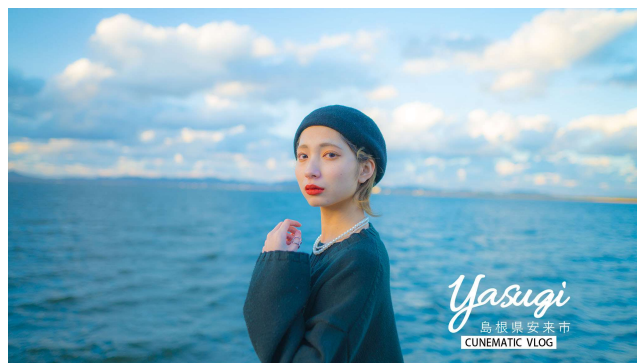
第2位 775票



『東京青梅 観光PR「都心から約1時間の別世界」～青梅に秋を感じに行こう～』
青梅市 経済スポーツ部 商工観光課
(東京都)

東京都心から約1 時間と手軽な青梅市の秋のしっとり、ゆったりとした非日常的な雰囲気疑似体験できる動画。紅葉の鮮やかさ、多摩川の水の音やにおい風が木々を揺らす音、落ち葉を踏みしめる音、地元食材を使ったこだわりの料理など五感で楽しめる映像に仕上がっている。

第3位 485票



『安来市プロモーション動画
Cinematic Vlog YASUGI』
安来市
(島根県)

SNS での発信、拡散を意識して、20 代女性をターゲットにCinematicVlog (シネマチック・ブイログ) を意識した、映画のようなきれいな映像と音楽を組み合わせたコンテンツにより、印象に残りやすい動画となっている。地名や建物名などの文字を動画内に入れないことで広告感のない感性に響く映像に仕上がっている。

■ 隈研吾 特別賞



最優秀賞

『季刊誌 楽』／株式会社イーズワークス（長崎県）



今回、最優秀に選んだのは長崎県で発行されている「楽」。
五島列島の大特集でした。

小さい場所、今まであまり注目されなかったような地域、
僕はそういうのを小さい地域という風に呼んでいます。そ
ういう場所に目を向けて、掘り下げて行って、こういった
ところの魅力を発見するっていう風なスタンスに大変好感
を持ちました。

そういう試みが、これからも日本のいろんな場所を発掘し
て世界に発信していってくれるのではないかなという風に
思っております。

そのような場所掘り下げるだけでなく、発信の仕方をさら
に磨いて、技を磨き、世界っていうものと小さな場所を繋
ぐような試みを、これからも皆さんに頑張っていたいた
いというふうに思っています。

(隈研吾 談)

■隈研吾 特別賞

優秀賞

『人生を耕すためのライフスタイルマガジン 耕Life』
／株式会社こいけやクリエイティブ（愛知県）



「人生を耕す」をテーマに、食・農・環境・暮らし・文化を取り上げ愛知県豊田市で発行。持続可能な社会を目指し、取材した人や企業と読者をつなぐ様々なイベントを定期的に行っている。ファミリーで楽しく読める編集コンセプトのもと、デザイン・イラスト・写真のクオリティも高い。

優秀賞

『別冊モトクラシー』／合同会社ココ（北海道）



北海道ど真ん中、旭川空港から半径100 キロ圏内の市町村で 地元の暮らしを豊かに楽しく過ごす為に、発行されている媒体。住んでいる人たちが地元の魅力を再発見できるようにディープな情報をインパクトのある写真とていねいな取材で紹介している。

■隈研吾 特別賞



優秀賞

『Fのさかな』／石川印刷株式会社（石川県）

Fのさかな

56号
2022
Take Free

fish on
石川県産魚の
情報発信

新種発見?!

栄螺



「さかな」を切り口に、能登の食・暮らし・伝統を発信。地元で獲れる魚をシリーズで特集。魚の専門的な情報から、その魚を使ったレシピまで、豊富なコンテンツで紹介。このユニークな編集により全国にファンをもつ媒体である。

優秀賞

『35MAGAZINE』／株式会社35design（北海道）



編集部が悩みに悩んで選び抜いたヒト・モノ・コトを紹介。今回のテーマは雪。北海道で暮らす人々にとっては切っても切れない「雪」をテーマに様々な切り口で深掘りしながら誌面を構成。時には生活を苦しめる雪との関係を見つめ直すことで、この地域で暮らすことの素晴らしさ・気づきを読者に与えてくれる。前号同様、写真・レイアウトのクオリティが高く印象に残る一冊である。

■隈研吾 特別賞



優秀賞

『REedit north otsu 住むが見える旅』
／一般財団法人シガーシガ（滋賀県）



滋賀県の大津市北部エリアの美しい自然と人々の暮らしをクオリティの高い社員を中心に紹介する媒体。レベルの高いクリエイティブでこの地域を表現することで、住民の暮らしがより豊かになり、多くの旅人がこの地を訪れるきっかけになるだろう。

日本地域情報振興協会（NiCoA）とは？



全国約1200誌のタウン誌・フリーペーパーのプラットフォームを運営する一般社団法人です。

当協会は、次世代の地域情報コンテンツ流通の核としての機能を果たすため、地域の活性化に貢献している地域密着型出版社(メディア会社)の発展を支援し、地域経済の活性化に寄与するという基本理念のもとに設立いたしました。

NiCoAの理念

日本各地の地域情報を国内外に発信することで、地域経済活性化に貢献する。

日本全国にある地域情報誌や地域密着型メディアは、常にその地域のトレンドや最新情報にアンテナを張り、読者へ情報提供を行うことで、エリアの魅力再発見につなげ、経済効果を生み出す役割を担ってきました。今後は、1社、1媒体では成し得なかった、エリアをまたいだ情報コンテンツの流通やデジタル化を推進することで国内外への情報発信を実現し、より広範囲に経済活動を支援して、地域経済活性化に貢献してまいります。

活動内容

① 会員企業の経営支援

各媒体社に様々な施策の提案をすることで、売り上げアップに貢献します。

② 地域情報メディアの専門的研究

全国約1200誌の有料誌・フリーペーパーのネットワークを活かし、日本全国の地域情報誌を対象とした調査・研究を行い、媒体社のコンテンツ編纂力・情報発信力の向上に寄与します。

【協会概要】

名称： 一般社団法人日本地域情報振興協会[NiCoA]

設立： 2013年7月17日

代表理事： 神原 未綺

所在地： 〒103-0001

東京都中央区日本橋小伝馬町12-5 小伝馬町YSビル 3F

連絡先： TEL 03-3527-3259

FAX 03-3527-3156

URL: <https://nicoanet.jp/>

※本件に関するお問い合わせ先
awd_info@nicoanet.jp (広報担当)
TEL 03-3527-3259 (代表)
